

第52回・第5期第2回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 議事録	
開催日時	令和4年（2022年）2月14日（月）18：30～19：50
開催場所	オンライン及び対面併用 （対面会議実施場所：市役所3階 特別会議室）
次 第	1 開会 2 議事 （1）令和4年度市民説明会の開催方針（開催方法、ターゲット、内容）について （2）各部会の状況報告 （3）3/22（火）の会議種別及び開催方法について 3 その他 4 閉会
出席委員	1 オンライン出席委員 久会長、飯室委員、加藤委員、檜垣委員、足立委員、田中委員、中山委員、藤本委員、前菌委員、平原委員、光村委員、沖野委員、津國委員、川上委員、喜多河委員 2 対面出席委員 上西委員、政処委員
開催形態	公開（傍聴人0名）

1 開会

事務局から、本日の出席者は17名であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者はないことを報告した。

2 議事

(1) 令和4年度市民説明会の開催方針（開催方法、ターゲット、内容）について

事務局より、配布資料に基づき説明を行った後、令和4年度に市民説明会を開催する場合の方向性等について意見交換を行った。内容は以下のとおり。

ア（会長）コロナの感染状況が読めず、早々に決めることができないかもしれないので、今回はフリーディスカッションで進めていけたらと思う。

イ 今までの経過や実績についてはわかったが、コロナ禍によって2年間のブランクがあることで、市民に対する説明のポイントがわからなくなっているのではないかとこの恐れを持っている。令和4年度に関しては、簡単にでも、ターゲットが誰であるかなどを整理した方がいいのではないかと。過去の大体の経緯を理解したうえで、現時点での要点を踏まえ、進めていくという形をとっていただけたらどうかと思う。

- ウ (会長) 今までの市民説明会も事務局主導ではなく、委員で考え、当日も委員会のメンバーが中心で動かしてきたので、「私達がやる」という立場で考えていけたらと思う。皆さんの思いやどういったことを中心に行うか、どういう方をターゲットにするかなどについてご意見をいただけたらと思う。
- エ 協働の指針から始まり、最終的には第6次総合計画や協働のまちづくり推進条例も作られ、この2年間で協働のまちづくりの形はかなり出来上がったと思う。いよいよ、「協働」を実際のまちづくりの現場で活かすという状況になってきている。そういう状況を踏まえて何が必要か。今までと違い、まちづくり協議会や色々な団体が実際に実行するという視点を持って取り組めたらどうかと思う。
- オ (会長) おそらく、事務局としては市民説明会を2年間開催できていないので、令和4年度に実施するというところで話をいただいたが、私達はちょうど今、協働のマニュアルの見直しを行っている。次の段階に移ろうとしているので、慌てて市民説明会を実施するよりも、協働のマニュアルの見直しが一定落ち着いた段階で、次のステージのお披露目として開催した方がいいのかもしれない。見直しをしている途中で中途半端に説明会を実施しても、何を話したらいいか定まらない状態で説明をすることになるので、説明会の実施時期について焦る必要はないし、逆に、焦るとどっちつかずになるのではないかと私は考えている。
- カ 協働の指針の存在を市民がどれだけ知っているのか。平成25年から自治会に籍を置き、過去に自治会長も務めたが、誰に聞いても「え、それ何？」という反応であった。もう少し浸透させなければいけない。市民説明会を10年間開催しているとのことだが、これまでの開催内容のうち記憶にあるのは2つか3つ程度である。
- キ (会長) 今の話は、協働のマニュアル検討部会の中でも出ていた。後ほど報告をいただくが、部会では、アンケートをとってはどうかという意見も出ていた。市民の方々、あるいは協働についてきちんと理解をしていただきたい方々(地域活動を担っている方々)にどれだけ指針が浸透しているのか、一定調査をしながら、協働のマニュアルの見直しを行ってはどうかという話になっている。今後、どのような方策でより認知度を高めていくのか、市民説明会か、あるいは別の方策の方が効果的なのかということも含め、少し時間をかけて検討をしていってはどうか。私も含め、今まで市民説明会を企画・実行してきたメンバーは、「1人でも2人でも多くの方に知っていただきたい」ということで手を変え品を変えやってきたが、先ほどのご指摘のとおり、なかなか伝わりきっていないということなので、どのようにすればより効果的に市民に浸透していくのか、皆さんの知恵をいただきたい。
- ク これまで協働のまちづくり促進委員会では色々なものを作成し、出来た段階で説明会をしてきた。協働のマニュアルの見直しを行う中で、実際にどこまで浸透しているかというチェックとともに、どういう点がまだ浸透していないのか、わかっているのかということもクリアにした上で、次の市民説明会を企画する方が良いかと思う。会長に同意する。今何をやるかというよりも、むしろ、今まで作ってきたものについて市民がどこまで理解されているかということ把握し、ターゲッ

トを絞ってやっていく方が良いのではないかと思う。

- ケ (会長) 今日フリーディスカッションの段階なので、どんどん意見を出していただけたらと思う。
- コ 市民説明会の開催に関しては、私も基本的には会長の考えと似ている。半年前にコロナの感染者数が減ってきて、年が明けたら色々な活動が復活できると思っていたが、結局感染再拡大したというのが年末頃からの流れかと思っている。今浮き足立ってしまうと、後々しんどくならないかが気がかりである。実際に、私が普段参加している活動でも、この2年ほど「やろうと思えばできるが、あえてしない」としてきたことは多くあった。活動を行うにあたり、自粛の方針などが示されればそれに従うということもあったが、逆に、何も示されていなくても今はやらないでおこうと自分達で決めたこともある。新規感染者数が下向きになってきたようだが、まだ完全には少なくなっていないというところで、今はちょうどその判断の難しいところにいると思う。もし、令和4年度に何かやるとすれば、マニュアルの見直しや指針のことをもっと知ってもらおうということも大事だが、実際に活動している市民あるいは行政が、どういう工夫をしてこの2年間を乗り越えてきたのか、体験談のようなものも伺ってみたいと思う。後は、オンラインを市民説明会に応用するのは難しいのかなと考えたりしている。
- サ (会長) 私が関わらせていただいているイベントでは、対面とリモートのハイブリッド形式がだんだん増えている。リモートが苦手な方は会場に来ていただいて、なかなか会場まで足を運べないという方はリモートで見ていただくという、両方にメリットがあるやり方ができている。準備側は大変なところもあるが、コロナ禍で得た一つの経験として、ハイブリッド形式のやり方を考えてもいいのかなと思う。今日はこういった形で、今まで関わってこられたメンバーであれば評価や反省点、新メンバーであれば市民説明会の情報が届いていたかどうか、外から見たご意見でもいいのでアイデアをいただけたらと思う。
- シ 令和4年度に市民説明会を行うことについて、どれくらいの性急度でやっていかないといけないのかという考えは頭になかった。会長の説明を聞いていると、急いでやるよりも、もう少し皆の認識が出来上がった中で進めていった方が良いのではないか。流れの理解がさらに深まると思う。
- ス (会長) 場合によっては、協働のマニュアル検討部会の方で、どうやって周知を図っていくかということについても考えていただくという手もあるかと思う。
- セ 話が協働のマニュアルの方に移っているのではないか。協働の指針そのものが、どれくらい浸透しているかということである。例えば「協働って何？」という話になったとき、必ず言われるのが「宝塚市は協働の指針で協働について説明をしている」ということである。協働の指針によって「協働」という言葉の説明を受けた人がどれくらいいるのかということが問題である。何かの会合を行う際などに、必ず協働の指針又は中身を2～3枚印刷してホチキス止めをしたようなものを配るなどして浸透させる方が先ではないかと私は思うが、いかがか。

- ソ 部会でも報告したが、平成25年頃から小学校統合の問題に関わっている。コミュニティを中心に、コミュニティにはいつも来ていないPTAや民生児童委員など、色々な人が集まってやっていると、話をどうやってまとめるかが大事になってくる。途中、話があまりに前後するので、協働の指針やマニュアルを配って話をしたことがあるが、内容の勉強というわけではないので、「はい、わかった」として置くのみになる。指針やマニュアルの配布あるいは口頭説明だけではなく、それを実際にどう活かすかである。少しずれるが話しておきたいこととしては、今まで会ったことのない人が集まっているので、会議の冒頭に「誰のためにやるのか」をはっきりさせ、子どものために最優先に考えようということになった。PTAや自治会をはじめ、地域や自分の事情など色々な人の思いはあるが、二の次にして、子どものためにベストな案を皆でまとめようとした。忘れそうになったら、そのことを持ち出すとなんとかまとまってくるが、協働の指針をどう実行するかということについては、言葉や説明会だけでは難しいと感じる。指針の内容を実際にどう活かすかというところは、やっていてすごく難しさを感じているという、一つの例を挙げた報告である。
- タ 今の発言を受けて、私も同じことを思っていた。実際に活動をしていくときに、指針の中身を読み込むということはあまりしない。まち協の事務局もしており、会議の運営も行っているが、今回委員になったことを受けて指針を改めて読むと、「ああ、そうだよね」と内容に納得できる。実際は、スタッフや運営委員に説明するというよりは、会議や活動をして何かを決めていくときの決め方や目的、どんな方法でしていくのかということ司会が把握して、「今回はこういう会議というのを決めていきましょう」「ここで決めましたね」と確認したり、報告書や記録として残したりする。
- チ (会長) 協働のマニュアルをなぜ作っているかという、指針だけでは抽象度が高いので、それを補うために、具体例を示しながら協働の進め方というものをよりわかりやすくお伝えしようというところがあった。指針だけでなくマニュアルも含め、どのようにしたらうまく協働が進み、きちんと出来上がっていくかというところが、本来私たちが考えていくことではないかと今までの話を聞いて改めて思った。例えば、私たちの社会を動かしている一番大切な法律は憲法だが、憲法を全文読んだことがあるかという話とよく似ているのではないか。普段は不自由なく生活ができていますが、本当に何か起こったときに立ち返る、柱のような役割として憲法は重要かと思っている。指針をいつでも脇に置き、指で押さえながらやっていくというよりも、ボタンの掛け違いが起こってきたり、自分と相手が思っている「協働」が違ふと感じたりしたときに、もう一度指針に立ち返って、「ここでこういうことを書いているよね」「私はこの文章をこう解釈しているけど、どう思う」というような手がかりとして使っていただくというのはどうかなと思う。先ほどの話で出ていたように、配ってもその場でさっと目を通すだけで終わりになってしまうので、使い方も含めて議論した上で、どういう形だと指針に盛り込んでいる「協

働」をうまく進められるのか。説明会がいいのか、別のやり方がいいのかということも含めて、次回以降に検討していただければと思う。

ツ マニュアルの見直しや市民説明会には直接関係ないのかもしれないが、協働の指針の中に「協働のテーブル」の表記がある。協働の指針を作るときに、上下関係ではなく皆がフラットな立場で色々な相談をしながらやっていくということで、従来の組織図のように委員長や会長の下にずらっと並んでいる表現はやめ、丸いちゃぶ台の周りに皆が並び、相談しているという構図にしたと思う。それが協働の基本中の基本と思っているが、規約が丸いテーブルになっていない組織がたくさんあるという印象。上下関係でなく、フラットなところにいるというのが浸透しにくい理由の一つになっていないかと思っている。市民や職員向けの説明会などで、理解してもらった上で変えるというのも一つの方法だとは思いますが、逆に形から入るような感じで、少なくとも「宝塚市」という冠のある団体であればなおのこと、組織図を丸いちゃぶ台形式にしないかということは何年も前から思っていた。説明会に直接関係はないかもしれないが、何かのときに思い出していただければということで提案する。

テ (会長) 後ほど報告の中にも出てくるかもしれないが、協働のマニュアル検討部会の中で私から提案させてもらったのは、今、特に40歳代以下で、組織でない一時的なグループがユニークな面白い活動を増えている。そういう方々を指針やマニュアルでどう取り上げたらいいのかということ。彼らのような動き方というのは、組織立っていないので、今までの指針やマニュアルでは乗っかりきれない。しかし、面白い元気な活動というのが宝塚でも増えていると思うので、そこにターゲットを当てると、今までのようにしっかりとした書き物がどこまで通用するのかという段階にも来ているかと思う。色々議論する中で、より未来志向の話ができればいいと思っている。

ト (会長) この話の延長戦は、部会なのか全体会なのか、事務局と検討させていただきたいと思う。

(2) 各部会の状況報告

事務局より、「協働契約のあり方検討部会」及び「協働のマニュアル検討部会」のそれぞれについて、配布資料に基づき説明を行った。各部会において委員から出された意見を抜粋した資料を示し、全委員で議論内容の共有を図った。

会長から、両部会に参加している委員も多いが、全体会ではそれぞれの部会に参加していない委員の意見もお聞きしながら、持ち帰って各部会で議論を続けていきたいとの話があった。

(3) 3/22(火)の会議種別及び開催方法について

委員に意見を伺い、順番に従って、今回は「協働契約のあり方検討部会」を開催することとした。4月以降については日程調整を行った後、事務局から部会と全体会との割り振りを提案する。会議の開催方法については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、対面かリモートかを検討する。

3 その他

(1) 議事以外の内容について意見交換が行われた。内容は以下のとおり。

ア 第5期第1回の委員会で提案すればよかったかなと思っていたことを発言する。

1つは、地域カルテを毎年リニューアルしてはどうかという提案。第6次総合計画ができて、まち協が計画の見直しをしている中で思った。その理由は、第6次総合計画は行政の計画とまちづくり計画とを並行で実行するもので、行政は毎年、データを基にして今までどおり予算化して決めている。まち協の計画も1年ごとに見直しとしているが、前提条件になるまちの状況がどう変わったかということについては把握するデータがない。行政は1年間の人口増減などのデータを活かしていると思うので、まち協がこの先10年、行政と協働を進め並行して計画を実行しよう、1年ごとに見直しをしようとなれば、20のまち協は手元に置いたデータをきちんと整理し、使わないといけない。そのときのまち協の代表者や委員が思いついたこと、個人的に気がついたことのみに基づいて方針の変更が行われるということでは今までとあまり変わらないので、地域カルテを毎年改訂するという点について、できるかどうかも含め、検討をしていきたい。2つ目は、平成28年にまとめられた「宝塚市住民自治組織のあり方に関する報告書」を受けて、平成29年に市役所で「地域自治の推進に向けての今後の取組」を作成した。これをチェックしてみると、できていないところもあるが、かなり実行されている。これをきちんともう1回整理・改訂してほしい。自治会の連合体への支援についても書いてある。こういうことが、実際にどういう流れになっているのかも、促進委員会としては把握しているほうがいいのではないかと思う。3つ目は、「みんなのまちづくり協議会ポータルサイト」に情報を集約していくということ。ポータルサイトでは地域カルテが閲覧できる。ポータルサイトをさらに使えるようにするという意味では、1年ごとに地域カルテを見直せば、まち協の活動をしている人でも、一般の住民でも、自分の住むまちがどういう状況になっているのか把握しやすくなり、市のホームページを開いてデータを探り、やっと引き出してくるという手間を省くことができる。ポータルサイトに情報を集約することで、まちづくりをスムーズにしていけるのではないかと思う。そのあたり、できるかどうかも含めて検討していけたらと思っているがいかがかという提案。

イ (会長) 事務局が受けてもらう部分もあるので、今日の提案を受けて、この委員会でどういう形で取り上げられるのか、少し時間をいただいて検討させてもらえたらと思う。地域カルテの見直しについては、専門知識を持っている人が住民に居れば、様々なオープンデータを使って同じように分析はできる。そういう意味では、市役所側がずっとカルテを更新していくのがいいのかどうか。おそらく、地域の中には分析に関する専門性が高い方も居られるので、そういう方々にまち協のメンバーに入ってもらいながら、自ら地域カルテに基づいて運営ができるように持っていくのかということも含め、今後検討させていただければと思っている。私が

一緒に仕事をさせていただいている都市計画コンサルタントの方で、宝塚市在住という方も何人かいる。本職として地域カルテを他の市で作っている方は探せば地域にいたので、そういう方にまち協の活動に関わっていただくことそのものが、まち協の活性化にもつながっていくのではないかと思う。専門性の高い部分というのは、他のまち協の活動でも必要だと思う。自分の専門性を活かす部分をまち協の活動の中で担っていただけるような体制が取れば、まち協の動き方もより活性化するのではないかと期待している。まち協自らがデータ分析や統計分析をしながら、計画作りや実践に活かせるかどうかということも、そろそろ検討してもいいかもしれない。色々ところでNPO活動を応援していて、専門性の高い方が地域で活動しきれていないと感じる一つの事例として、学校の先生のOB・OGが挙げられる。たとえば、放課後の学童保育の授業などに活躍の場面があると思うが、なかなか地域での活動に入りきれていないので、自分たちでNPOを作り活動されている教育関係者もいる。他にも様々な専門性を持った方が地域に居るし、そういう方々が多いのが宝塚の特徴だと認識している。一つの受け皿として、統計分析ができる専門家にいかにまち協の活動に関わっていただけるか、そういったことも含め、事務局とまた話をさせていただければと思う。

ウ (会長) 私の方から、こういう観点も皆さんに考えていただきたいなと思うことがある。今、講演会などはリモート開催が増えており、自分たちの関心事に触れるものがあるかどうか、調べられる方は自分で見つけてくることのできるが、より多くの方にどのように市外の様々な情報をお届けしていくか、うまい仕組みや仕掛けができればと思っている。私自身、「拡散してください」という情報があればFacebookなどで拡散している。もっと多くの方に参加してほしいという情報について、シェアする方法を考えていただくと、コロナ禍でリモート開催が増えたところのメリットを私達はもっと使えるようになってくると思うので、何か検討いただければと思う。この土曜日に「大学コンソーシアム大阪」という、大阪府内にある大学の連携組織があるが、ここで学生のワークショップをやった。今までは対面であったため、参加者を大阪府内に限定していたが、リモート開催になったので全国的に流してみたところ、北海道大学の学生がリモートでワークショップに参加してくれた。リモートの良さをもっともお互いにうまく使えるような情報共有も考えていただければありがたいと思う。

エ 私の団体で実施している講座の参加者も増えている。夏にやったオンラインの講座は全国から参加があった。地域を超えて参加いただけたので、よかったと思っている。

オ (会長) うまくリモートで市内、市外問わず情報交換ができるようなこともどんどん増えていったらいいかなと思う。

(2) 事務局より、促進委員会の会議資料の市ホームページへの公開及び傍聴者への資料の持ち帰りを許可することについて提案し、了承された。

4 閉会

以 上